



津山工芸展3年連続入賞
中江 勝久さん(大田)

64歳で会社を退職後、工芸品の鑑賞をきっかけに、独学で竹細工づくりを開始。翌年から作品を販売し、67歳で初めて個展を開く。3日間で300人が訪れたことから、本格的な竹細工づくりを決意。68歳で津山工芸展に初出品し、新人賞を獲得。その後も、津山民芸協会の会長賞(平成30年)や岡山県議会議長賞(令和元年)を受賞。作品は昆虫や動物、花など幅広い。70歳。



▲ピンセットを使い、竹を接着剤で付けて、セミの羽を作る中江さん



▲竹細工で作ったカマキリ、ハチ、トンボ



竹細工づくりを始めたきっかけは？

工芸品の展覧会で竹細工を見て、自分もできそうだと思う、挑戦したことがきっかけです。ものづくりの経験はありませんでしたが、以前から「見たものを自分の手で彫って形にしたい」と考えていたので、まずはやってみようと思い、行動に移しました。

インターネットで図面を見て、カマキリを作ったところ、周囲の人たちが作品を評価してくれました。この経験で自信が付き、竹細工づくりを始めました。

やりがいを感じることは？

自分の鑑賞用として作った龍の作品を気に入ってくれた人から、販売してほしいと頼まれたことがありました。最初は、作品を手放すつもりは無かったのですが、熱意に押され、譲りました。作品を購入した人から「次回作を期待している」「部屋に飾っている」と言われると、わたしの作品を大切にしてくれていることが分かり、やりがいを感じます。

また、建設業の職人さんから「細かい部分まで気持ちを込めて作っている」と言われたことがあり、とてもうれしかったです。竹細工の緻密で繊細な世界に入り込んでいくと、ますます創作意欲がわいてきます。

津山の皆さんにメッセージを

会社を退職した時、世の中との繋がりが無くなるのではという不安がありました。竹細工のおかげで、新たな世界が広がりました。今後は、昆虫や動植物を擬人化した作品に挑戦するので、展示したときには、皆さん、ぜひご覧ください。



先日、同僚(新郎)の結婚式に出席しました。式の最後に新婦が両親に手紙を読む場面はよくありますが、この日、新郎も両親に手紙を読んでもいました。後日、その同僚に聞くと、最近の流行で、新郎も手紙を読む場合が多いとのこと。約20年後、自分の子が結婚する時、どんな結婚式になっているかなあ。(W)

山に囲まれた土地で育ったせいか、海を見ると思わず「海だ」と言ってしまう気持ちに共感してくれる津山っ子も多いのではないだろうか。先日、牛窓の海でシーカヤックを漕ぐ体験をしました。波の音だけが聞こえる中で、沈んでいく夕日を見つめる非日常の空間。身も心も癒やされた一日でした。(C)

注目！今月の津山人のコーナーで取材した中江勝久さん。1日の竹細工づくりは2時間だそうです。作業に取り掛かると、研ぎ澄まされた集中力と無駄のない手先の動きに圧倒されました。作業後は、ゴルフの練習など、のんびりと過ごすそうです。集中力の使い分けが、技術を磨く秘訣だと気付きました。(三)

編集・発行
津山市総合企画部秘書広報室(〒780-8501 岡山県津山市山北520)

☎ 0868-32-2029
☎ 0868-32-2152
✉ kouhou@city.tsuyama.lg.jp

広報津山は、環境保護のため再生紙と植物性インキを使用しています。読み終わった後はリサイクル(資源)にご協力ください。

☆津山市公式Instagram
https://www.instagram.com/tsuyama_city/



☆広報津山電子版
https://www.city.tsuyama.lg.jp/



☆津山市公式Facebook
https://www.facebook.com/city.tsuyama.kouhou

